



# 2024年12月期通期 決算説明資料

FIG株式会社 2025年2月19日



- 01 | **会社紹介**
- 02 | **2024年12月期通期決算概要**
- 03 | **2025年12月期計画**
- 04 | **資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応**
- 05 | **補足資料**

# 01 | 会社紹介



会社名 FIG株式会社 (Future Innovation Group, Inc.)

設立日 2018年7月2日 ※グループ前身のモバイルクリエイイト設立は2002年

代表者 代表取締役社長 村井 雄司

所在地 大分県大分市東大道二丁目5番60号

資本金 20億円

従業員数 771名 (2024年12月末現在連結)





## モバイルクリエイイト

### IoT・ペイメント

- ✓ IP無線システム
- ✓ 動態管理システム
- ✓ 車両配車運行管理
- ✓ ペイメントサービス



## REALIZE

### 装置製造・ロボット

- ✓ 半導体・自動車関連装置
- ✓ 金型・精密加工
- ✓ ロボット

## KTS ケイティーエス

### IoT・スマートホテル

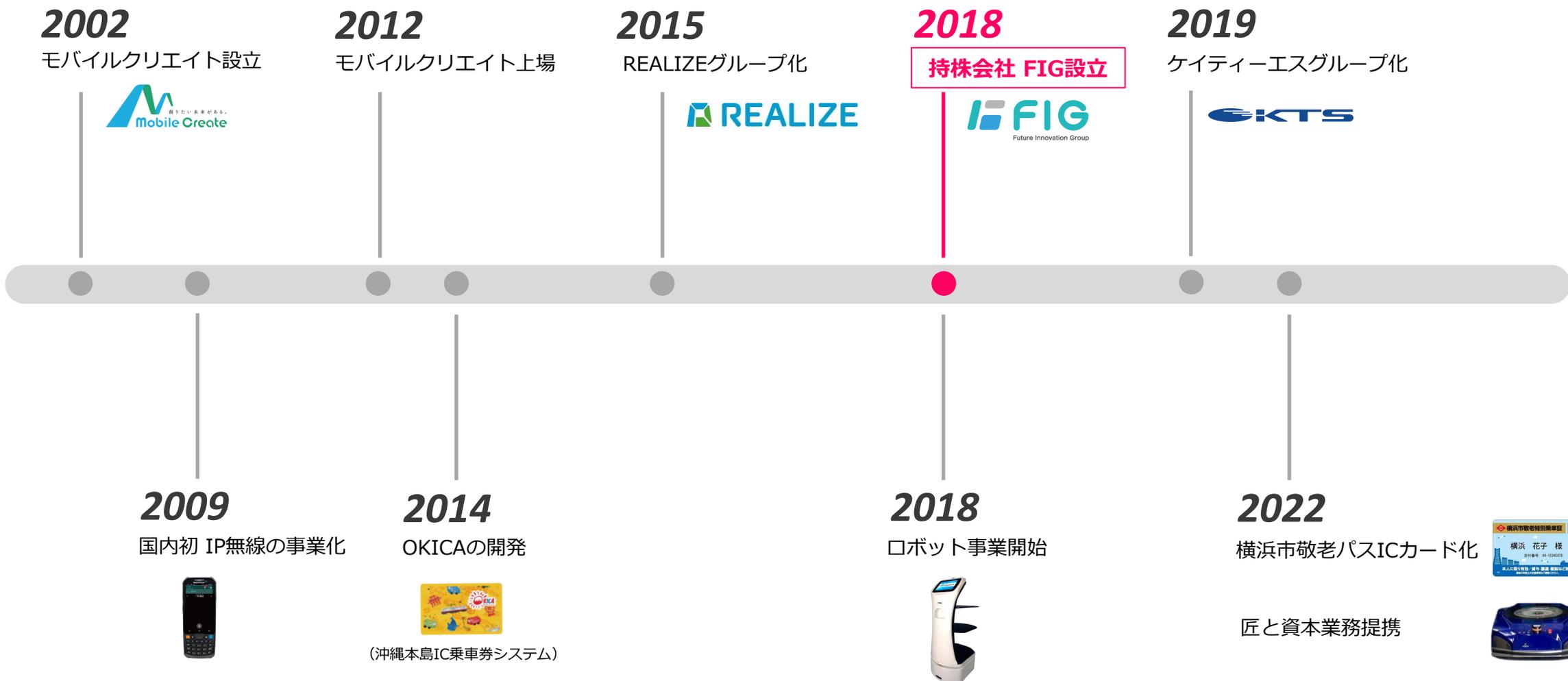
- ✓ マルチメディアシステム
- ✓ IoT基板製造



## その他のグループ会社



- ✓ ドローン
- ✓ ボイスソリューション
- ✓ 物流システム



# 02 | 2024年12月期通期決算概要

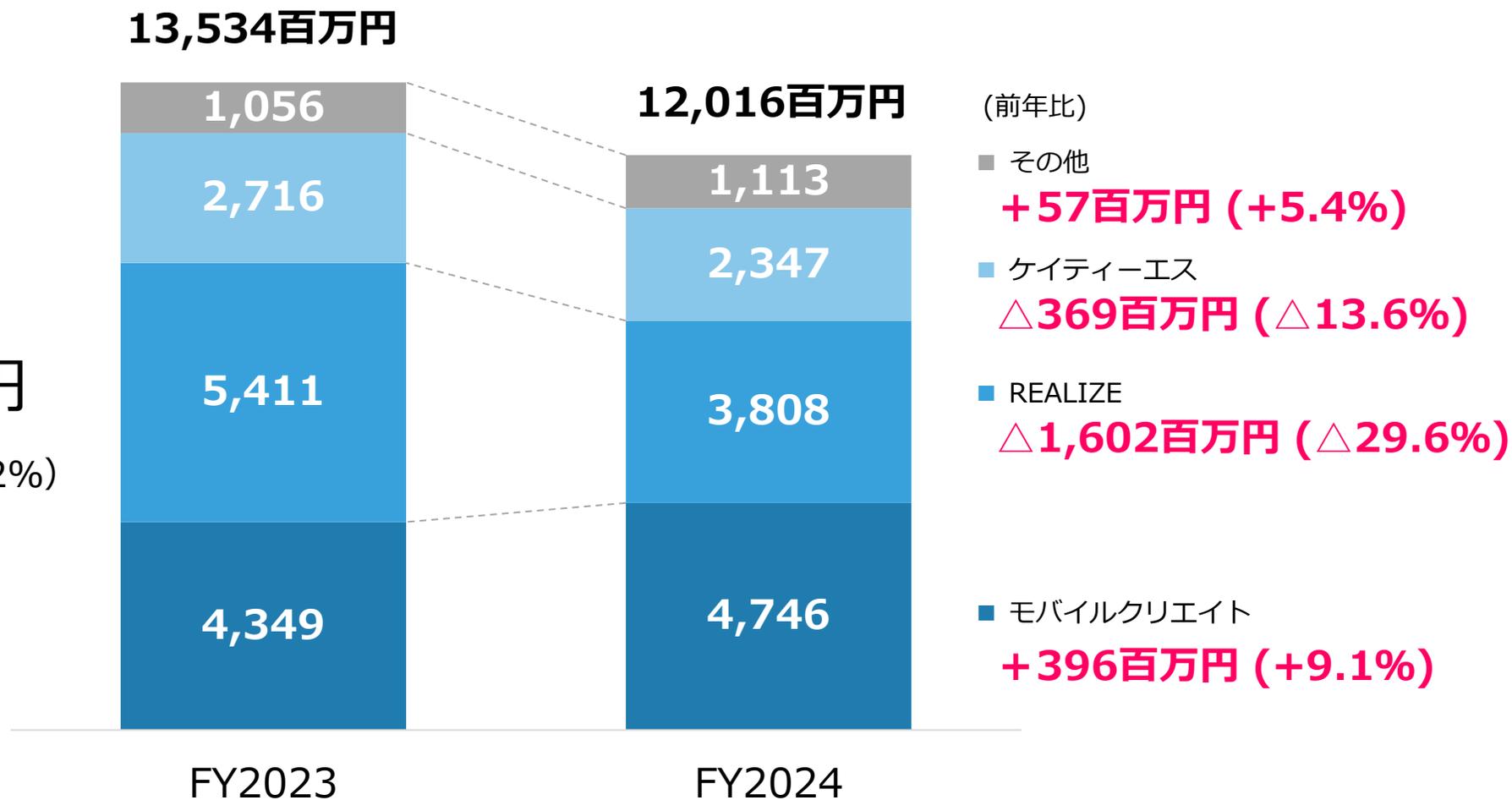
## 過去最高業績を目指したものの、**大幅な未達**

- **モバイルクリエイイト**は、**IoT関連好調**で**過去最高業績**
- **REALIZE**は、半導体在庫問題が想定よりも長引くとともに自動車メーカーの減産などの影響による投資先送りで装置が**苦戦**
- **ケイティーエス**は、ホテルマルチメディア（新モデルへの入替遅れ）とIoT基板（半導体在庫調整）ともに**苦戦**
- **搬送ロボット**は、**新規案件など着実に進展**しているものの、**投資フェーズが継続中**（業績本格寄与にもう少し時間がかかるが成長には自信アリ）

FY2024 売上高

# 120 億円

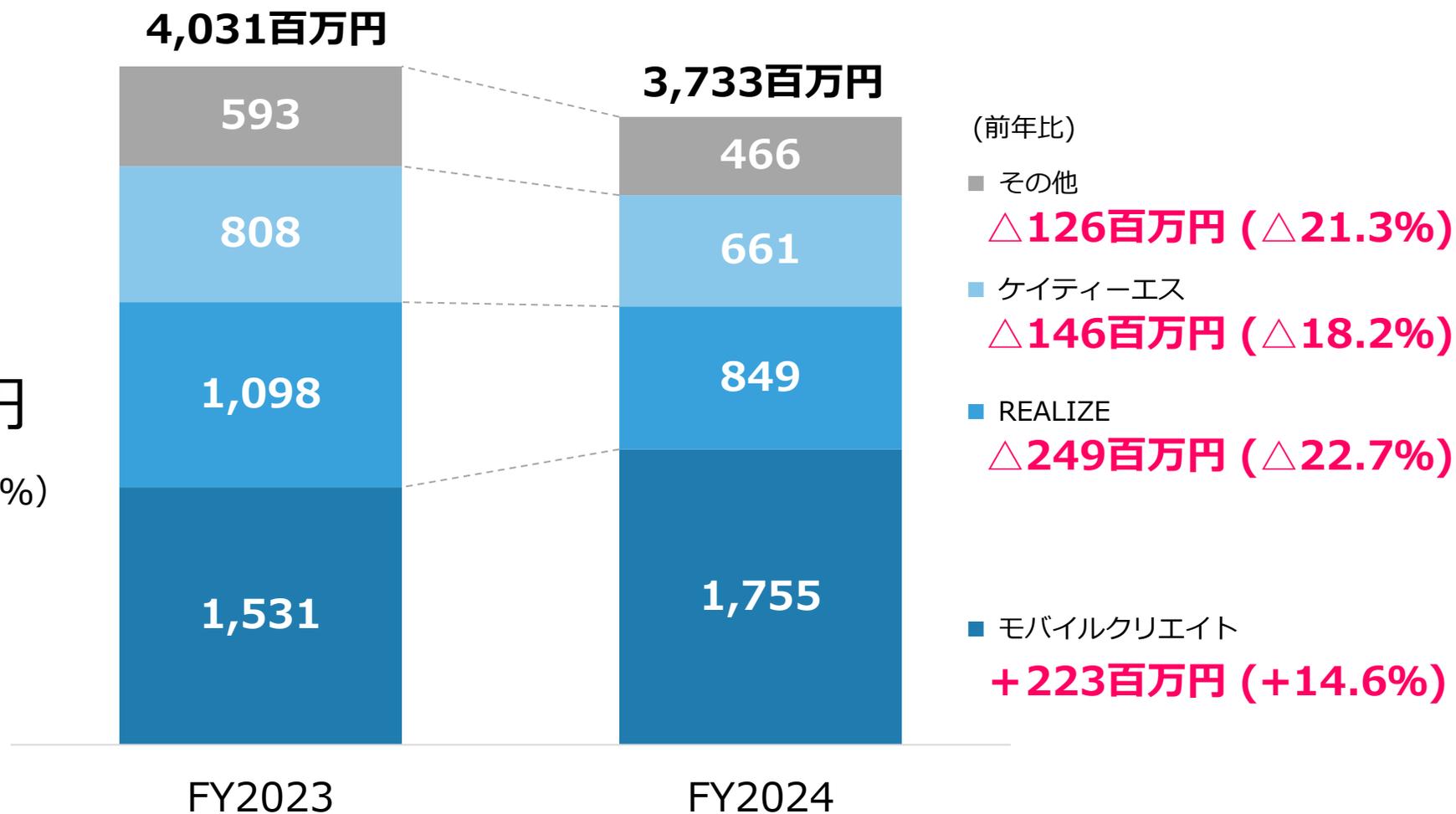
前年比：△1,518百万円 (△11.2%)



FY2024 売上総利益

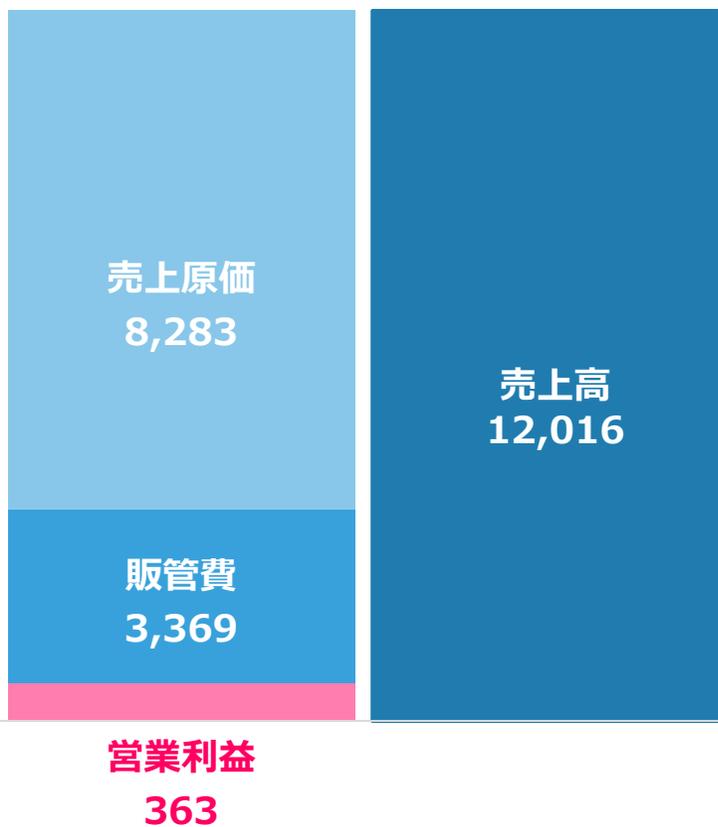
# 37 億円

前年比：△298百万円 (△7.4%)



## 収益構造

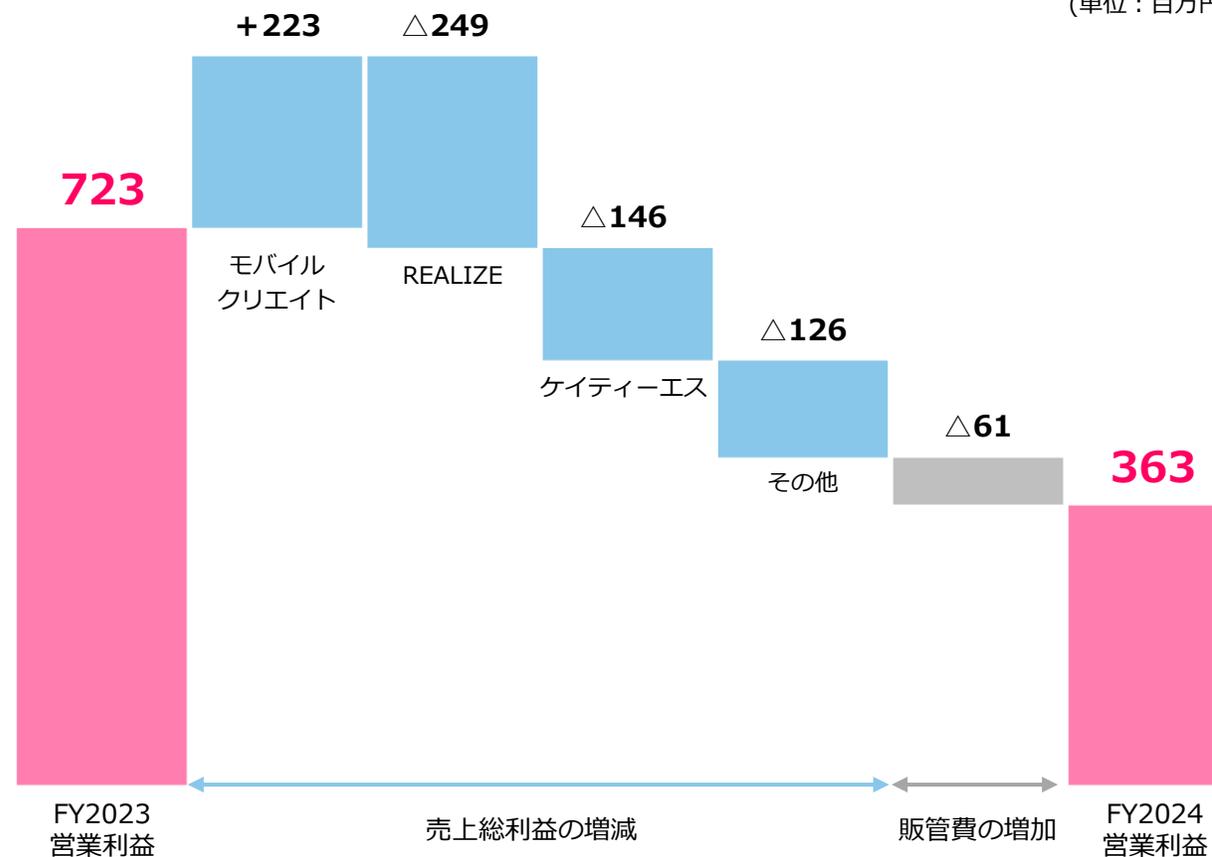
(単位：百万円)



## FY2024 営業利益

# 3.6 億円

(単位：百万円)



## 投資有価証券の評価を保守的に見積もり、**特別損失約17億円**を計上

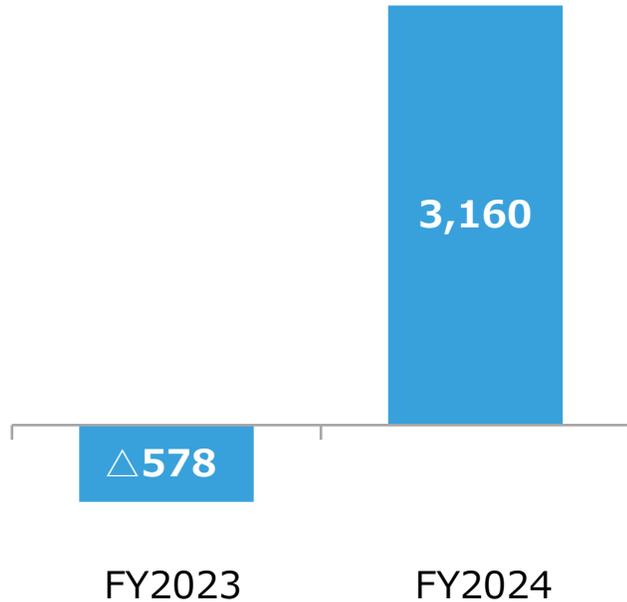
- 資本業務提携先でロボットベンチャーとして先行開発を進めている**株式会社匠**が発行する転換社債型新株予約権付社債（CB）の評価を保守的に見直し、**CB全額の投資有価証券評価損を計上**
- 会計的には多額の損失計上となったものの、匠社のロボットはトヨタグループなど大手企業の製造現場に導入実績を増やしており、**ビジネス展開上におけるCBの保有価値は変わらない**
- 工場や物流倉庫など自動化市場を開拓し、**純国産GTP型AGVで国内No.1メーカー**を目指す  
(現行機バージョンアップ・新型機開発にも着手)
- 本件は一過性の損失であり、**中長期的な視点では将来の負担が軽減**されるため、資本効率の向上とともに**匠社との提携を強化**(2022年より続く匠社との資本業務提携を継続)して成長基盤を確立していく



FY2024 営業C/F

**31.6** 億円

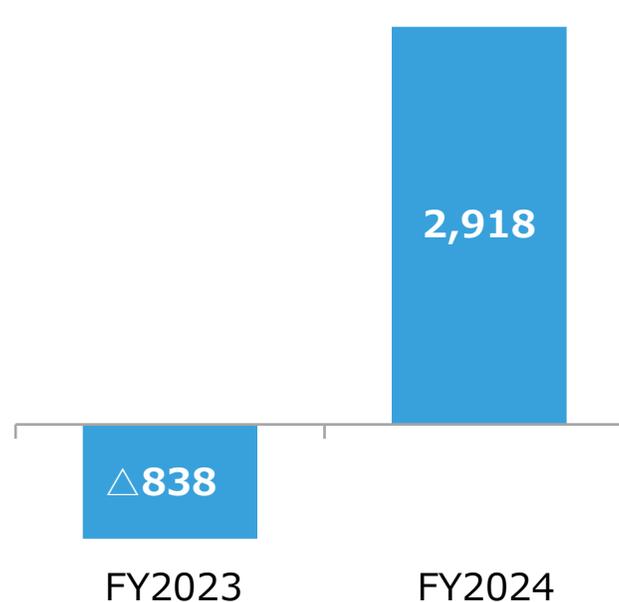
(単位：百万円)



FY2024 投資C/F

**29.1** 億円

(単位：百万円)

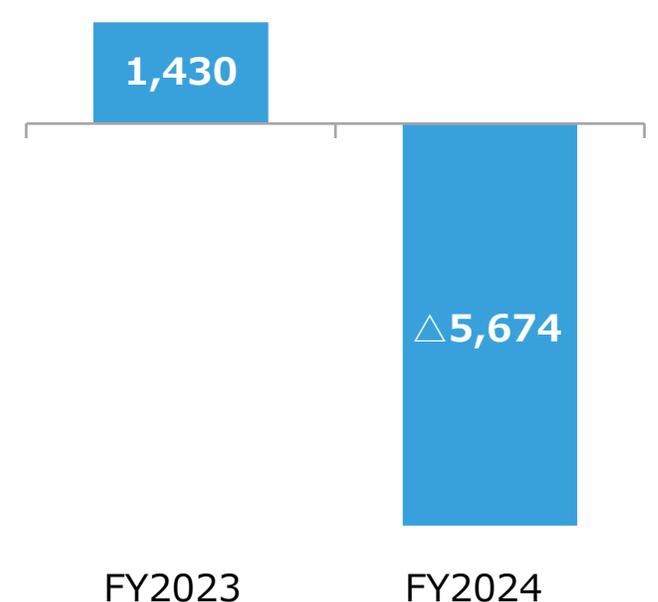


FY2024 財務C/F

△**56.7** 億円

借入金は前年比で△60億円

(単位：百万円)



- ✓ 最終赤字で純資産は減少したものの、資産オフバランスで**有利子負債を大幅削減**、**手元資金増加**と**自己資本比率向上**
- ✓ バランスシートはスリムに健全化、**投下資本の減少により資本効率（ROE・ROIC）の向上**に取り組む

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	FY2023	FY2024	前年比
売上高	13,534	12,016	△11.2%
売上総利益	4,031	3,733	△7.4%
販管費	3,308	3,369	+1.8%
営業利益	723	363	△49.7%
経常利益	715	393	△45.0%
最終利益	210	△1,412	—
1株当たり配当金	5円	5円	

※最終利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	FY2023	FY2024	増減
現金預金	2,203	2,614	+410
その他流動資産	13,012	8,096	△4,916
固定資産	7,620	5,184	△2,435
<b>資産合計</b>	<b>22,835</b>	<b>15,895</b>	<b>△6,940</b>
有利子負債	10,287	4,264	△6,023
その他負債	2,953	3,457	+504
<b>負債</b>	<b>13,240</b>	<b>7,722</b>	<b>△5,518</b>
<b>純資産</b>	<b>9,595</b>	<b>8,172</b>	<b>△1,422</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>22,835</b>	<b>15,895</b>	<b>△6,940</b>
自己資本比率	41.4%	50.6%	+9.2%

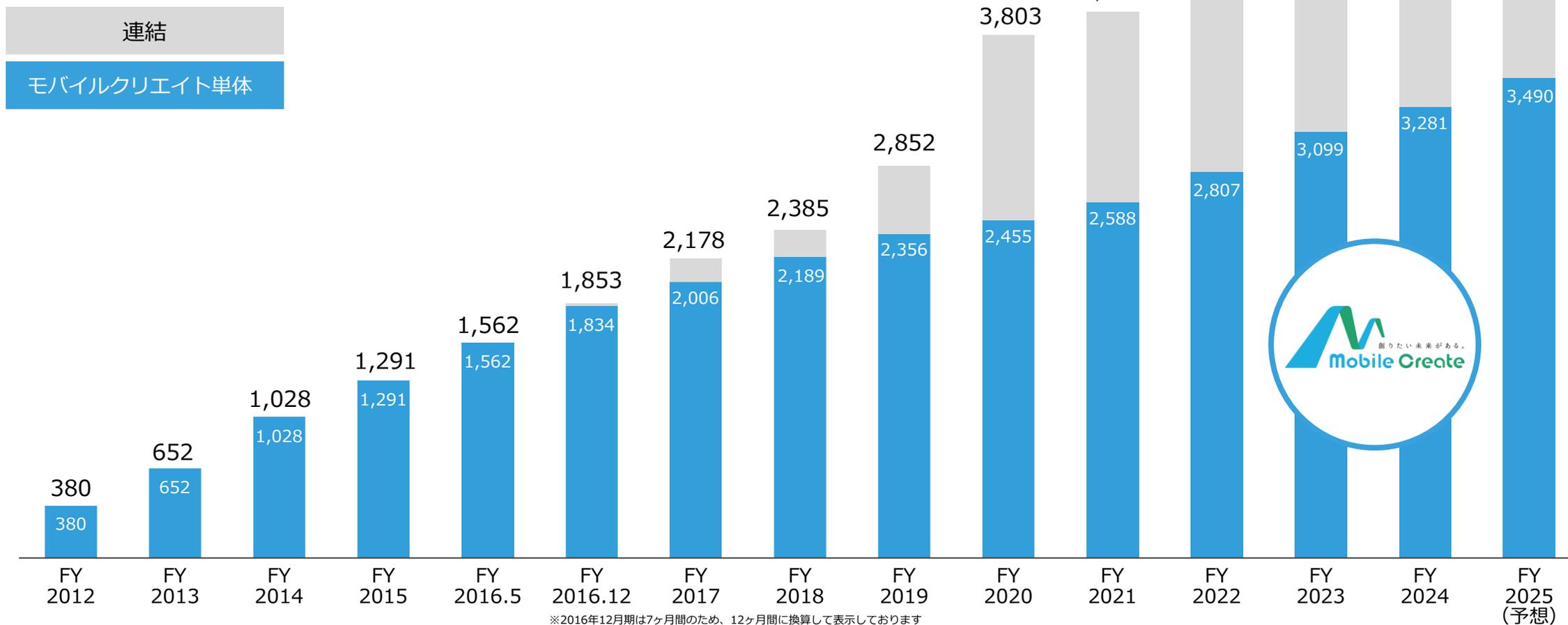
(単位：百万円)

## 収益基盤(IoT×SaaS)によるサブスク売上高

モバイルクリエイトはモビリティ中心に順調に拡大

一部サブスク内容の見直し（収益性や成長戦略との適合などを検討）

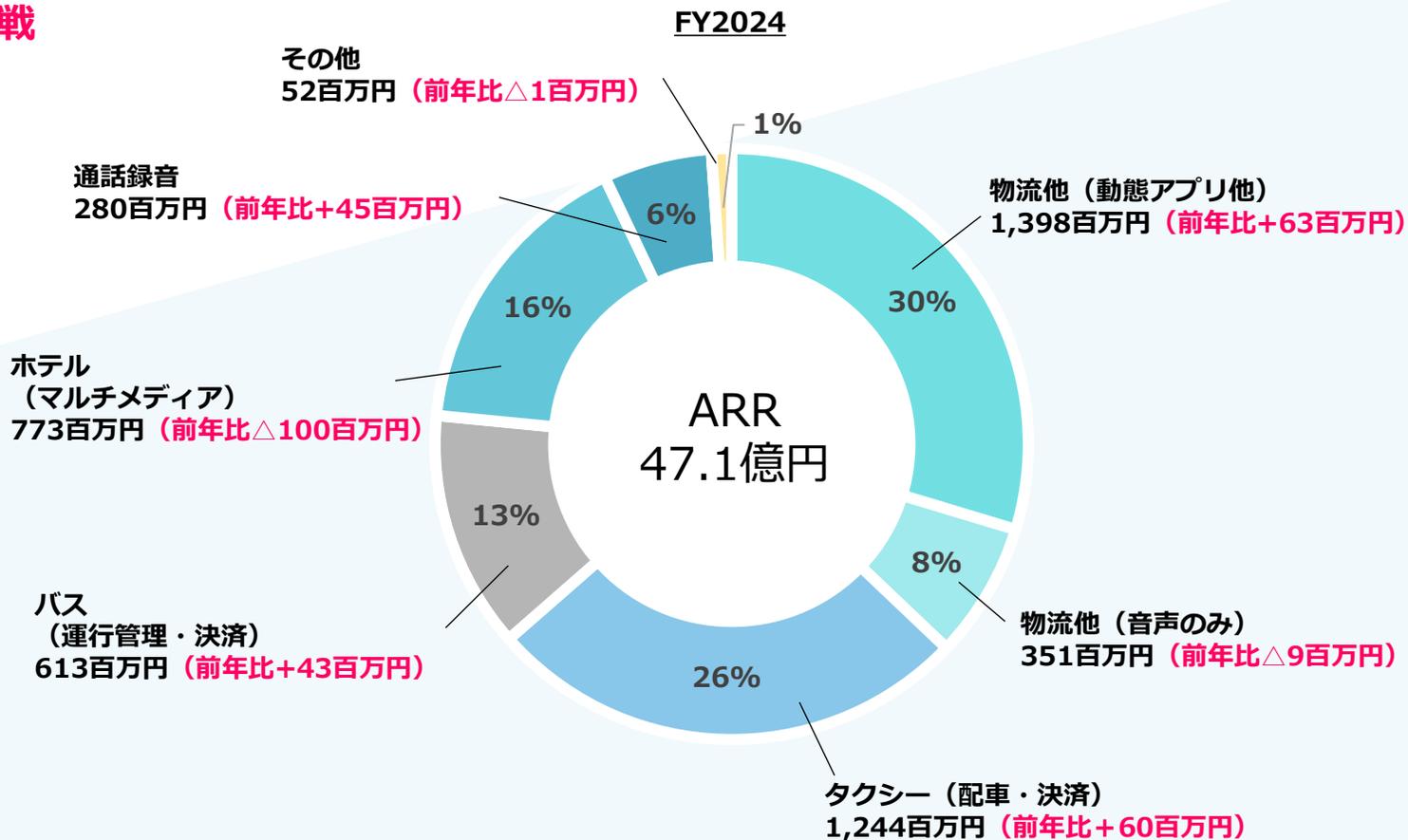
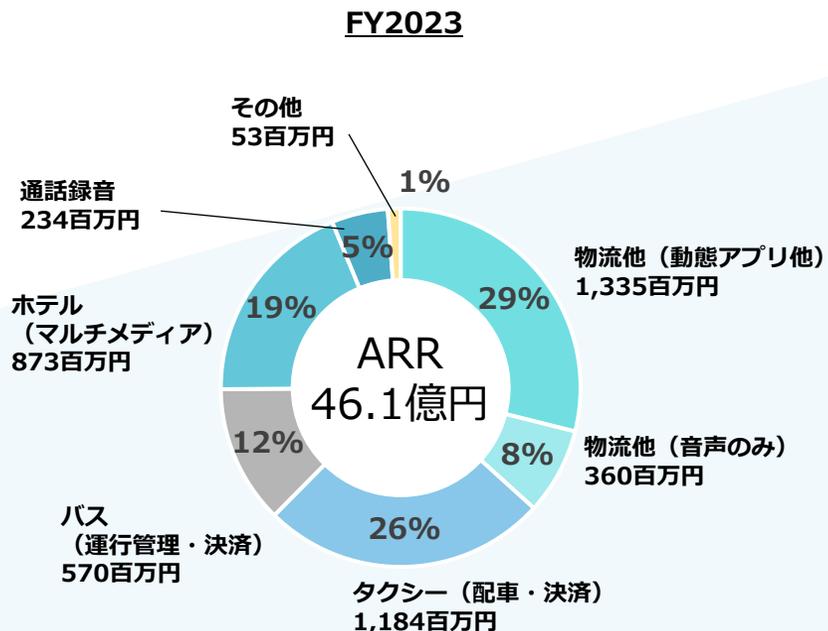
4,680~4,920



※2016年12月期は7ヶ月間のため、12ヶ月間に換算して表示しております

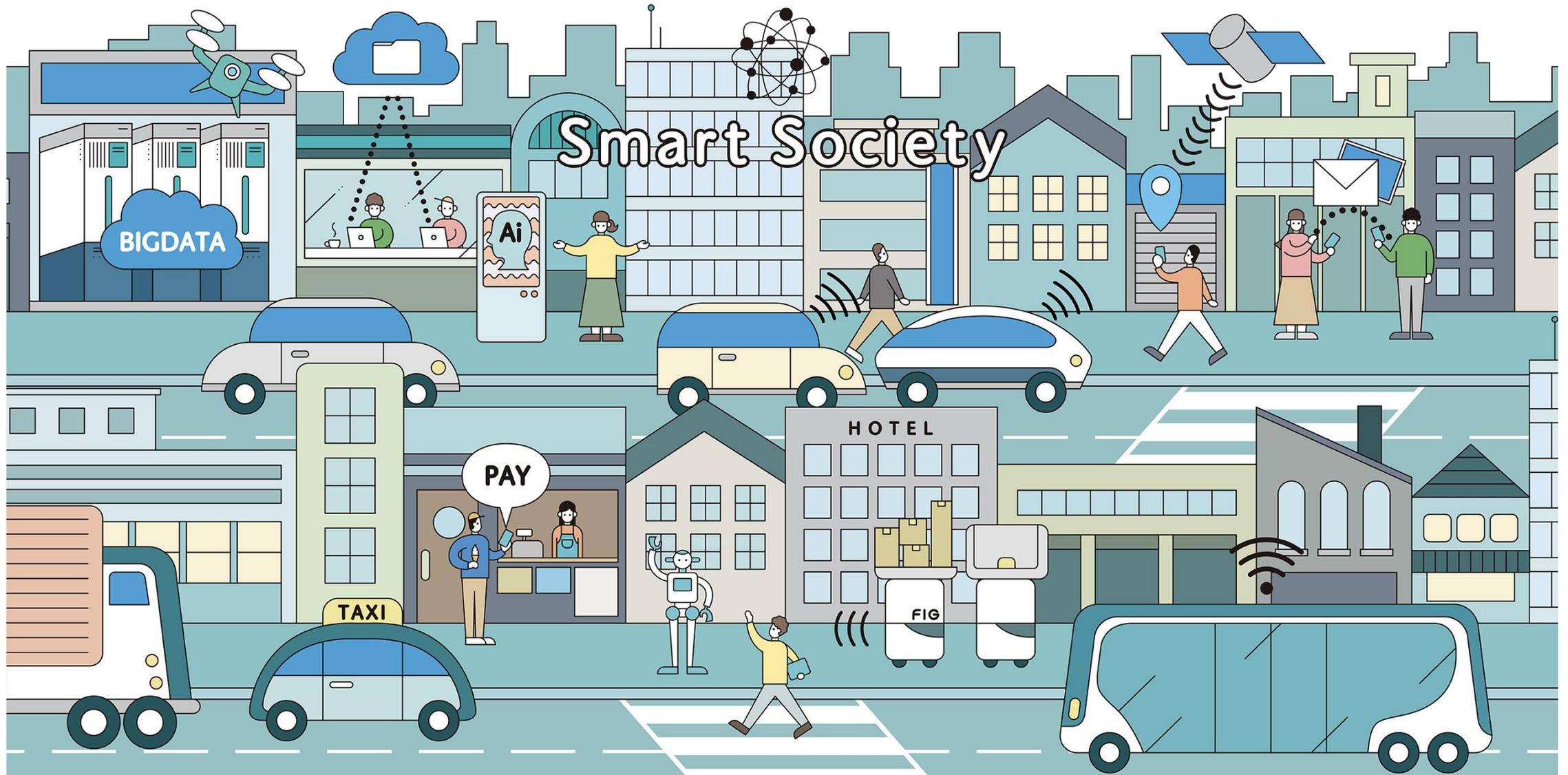
FY2024はモビリティ関連が好調、ホテルが苦戦

## ARR + 1.0億円



※ARR（Annual Recurring Revenue）は、各年度12月時点のMRR（Monthly Recurring Revenue）を12倍にして算出

# 03 | 2025年12月期計画



IoT+モノづくりの技術で安全・効率・快適なヒトとモノの移動を支える  
+ 人手不足を解消するため自動化への取り組みを強化

タクシー配車    バスロケーション  
トラック動態管理    ドローン

IP無線  
**移動通信**

**モビリティ**

公共交通運賃決済  
**ペイメント**

# 移動

今後注力分野 (工場・倉庫)

# + 自動化

装置・ロボット・上位システム連携

**宿泊**  
マルチメディアシステム

**マテハン**  
搬送ロボット (AGV・AMR)

ソフトウェア × ハードウェア × 通信の技術力に強み

✓ **IP無線**のパイオニア（物流メインに**車載導入No.1**）

✓ 交通分野に強い（タクシー配車とバス運行管理 + **ペイメントサービス**）

**タクシー**システム導入台数**27,700**台（全国約20万台の**14%**）※法人・個人タクシー

**バス**システム導入台数**17,400**台（全国約5.5万台の**31%**）※乗合バス

✓ モバイルクリエイトの**サブスク売上**（通信契約**15万回線**）



✓ 情報通信業（バーチャル） + 製造業（リアル）で**国産搬送ロボット**を展開

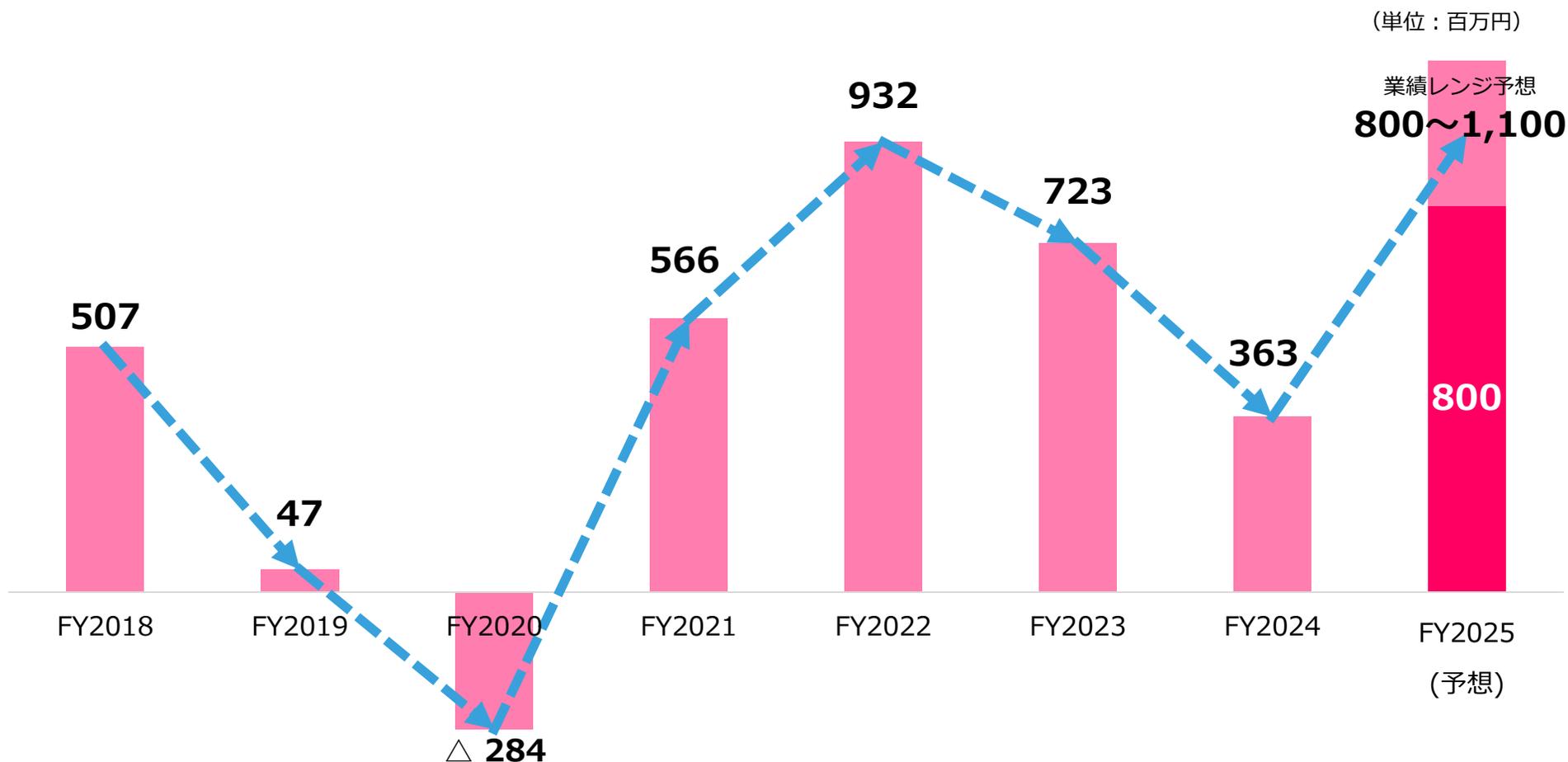
- ✓ **モバイルクリエイトは過去最高業績を更新見込**（サブスク強化）
- ✓ 2025年の**業績予想はレンジ**（半導体市場の在庫調整や自動車の生産動向など**外部環境の好転時期により変動**）
- ✓ ロボット・自動化市場の開拓などテーマの多い**REALIZEの成長がグループ成長の鍵**となる

（単位：百万円）

	グループ会社	FY2024	FY2025	YoY
売上高	<b>全社</b>	<b>12,016</b>	<b>13,600~14,500</b>	<b>+13.2% ~ +20.7%</b>
	モバイルクリエイト	4,746	5,000~	-
	REALIZE	3,808	4,800~	-
	ケイティーエス	2,347	2,700~	-
	その他	1,113	1,100	-
<b>売上総利益</b>		<b>3,733</b>	<b>4,174~4,580</b>	<b>+11.8% ~ +22.7%</b>
<b>営業利益</b>		<b>363</b>	<b>800~1,100</b>	<b>+119.9% ~ +202.4%</b>
<b>最終利益</b>		<b>△1,412</b>	<b>552~750</b>	-

※最終利益=親会社株主に帰属する当期純利益

FY2020はコロナで初の営業赤字、足元では成長のための先行投資を続けているため、  
 まだ**営業利益は凸凹**があるものの、  
**サブスク基盤拡大**とともに**全体傾向としては上向いていく**



## まずは主要3社をしっかりと成長路線に乗せる

事業ポートフォリオの見直しについても継続的に行い、選択と集中やグループ再編等も検討

### モバイルクリエイト

オーガニック成長+AI活用で  
グループを牽引

IP無線特需獲得  
サブスク拡大

ペイメント  
公共交通分野  
+  
新市場開拓

IoT・AI  
新サービス開発

### REALIZE

チェンジとチャレンジで  
拡大路線へ舵取り

ロボット開発強化  
自動化装置市場開拓

海外市場  
への取り組み

先端半導体工程  
への取り組み

新製品、金型、  
加工部品強化

### ケイティーエス

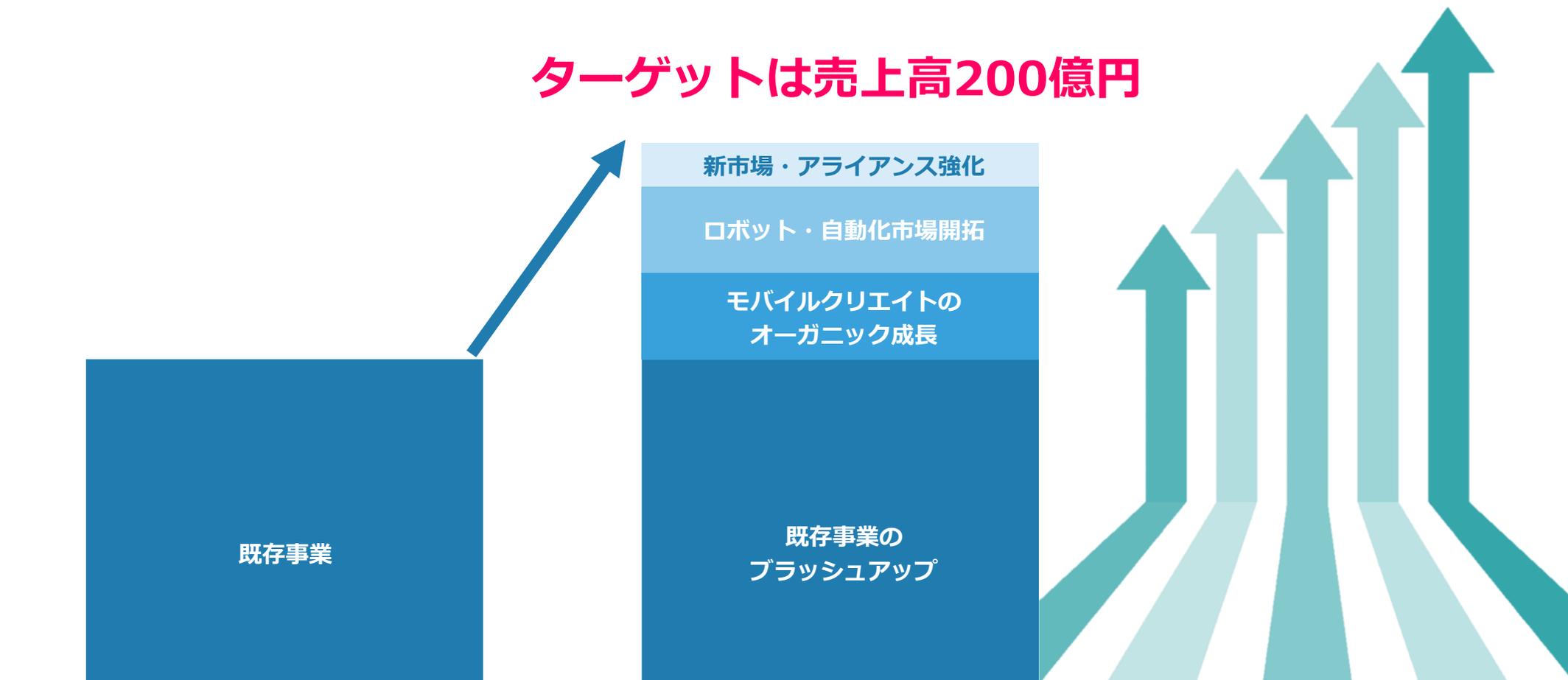
協業・提携・OEM/ODMなど  
アライアンス強化

SiTV導入強化  
チェーンホテル展開  
+  
新市場開拓  
(アライアンス強化)

ペイメントサービスの  
ホテル展開  
(アライアンス強化)

IoT基板の  
OEM/ODM拡大  
(アライアンス強化)

## 中期経営計画（FY2022－FY2025）は、新たな成長基盤の確立ステージ 次のステージでの成長イメージ



モバイルクリエイトの**基盤事業**で**サブスク**が拡大  
**10万局超**の**自営無線サービス**が終了、入替の**特需獲得**

政府が推進する公共安全モバイルシステムへの対応を推進  
(防災市場など**自治体導入実績**を拡大)

通信契約 **15万** 回線の**主カサービス (iMESHシリーズ)**

ハンディタイプ



IM-530

IM-560

車載タイプ



IM-870

IM-861

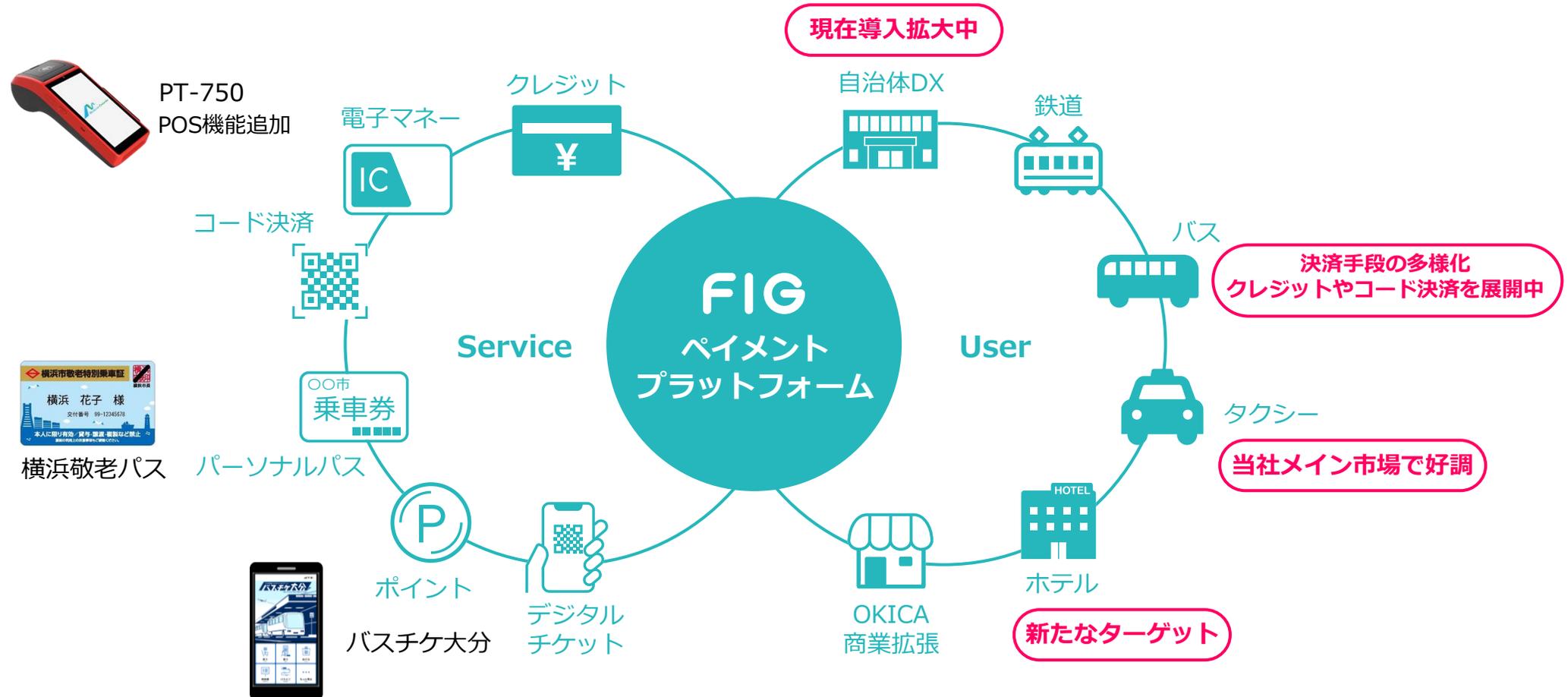
スマホアプリ



iMESHアプリ版

## ペイメントは順調に拡大、得意の公共交通分野から新市場を開拓中

タクシーとバスでは、年間延べ1億2千万人の乗車代金の支払いで活躍、スムーズな移動に貢献



## ソフト・ハードにIoT・AI・無線通信の技術をグループ内でカバーできるのが強み

- ✓ 工場や物流は、どこも人手不足  
(物流はEC拡大にドライバーの時間外労働規制)
- ✓ モノの移動 (マテハン) は無くなり、  
工場や倉庫で自動化の波は拡大していく



- ✓ システム提案型のワンストップソリューション  
(上位システムや周辺設備との連携)
- ✓ カスタマイズとアフターフォローが国産の強み  
(顧客の課題解決のためにアイデアを出して価値を創出)

## 純国産の搬送ロボットと装置連携で自動化市場を開拓

匠との連携  
トヨタグループなどに導入



Rapidusの  
パイロットラインへ



導入  
準備中

マニピュレータ制御  
SUMCOなどに導入



長崎スタジアムシティ  
サービスロボット実証実験



## コロナ以降苦戦しているものの、**アライアンス強化でSiTV導入拡大**



「SiTV」  
マルチメディア  
システム

- ①キャスト機能
- ②ミラーリング機能
- ③ネット動画視聴機能
- ④ニュース機能
- ⑤BGM機能
- ⑥インターネット検索・閲覧機能
- ⑦インフォメーション機能
- ⑧VOD機能
- ⑨リネンシステム
- ⑩混雑案内システム

ホテル向けに**約62,000室**導入実績

アライアンス協議中



今後は**介護・医療施設**への展開を目指す

**都内の病院**2施設に導入済み

入院療養環境の構築分野で  
国内トップシェアの**パースジャパン**と提携を強化

# 04 | 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

## 現状認識

- ✓ 当社のPBRは1倍前後で推移しており、PBR向上は経営の重要課題
- ✓ 当社株式の1日平均売買代金は移行基準日より約3.8倍増加（IR・PR活動に一定の成果、更に増加必要）
- ✓ 当社グループに最も必要なのは業績結果と将来期待度

## 方針

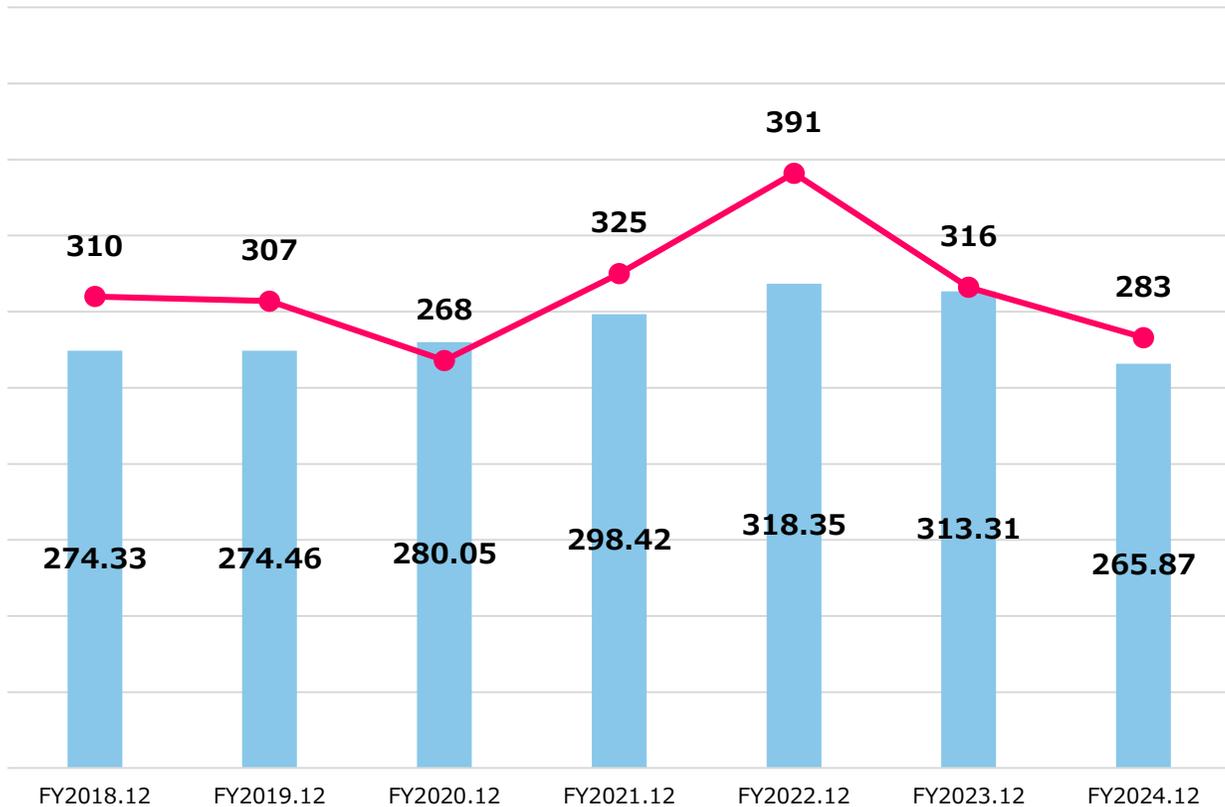
- ✓ 中期経営計画（FY2022-FY2025）の実行（最も重視する目標は営業利益11億円以上）
- ✓ 資本効率の向上（ROE8%以上とROIC4.5%以上）
- ✓ 成長ドライバーと位置付ける搬送ロボットの事業拡大（将来期待度）

## 具体策

- ✓ 事業ポートフォリオの見直しと最適化の継続実施
- ✓ 搬送ロボットと装置の連携による自動化市場開拓、資本業務提携先の匠社との連携強化
- ✓ 継続的な決算説明会の開催（動画配信の強化）
- ✓ IRに加え、まず知ってもらうためのPR継続（ホームページやSNSを活用した認知度の向上）

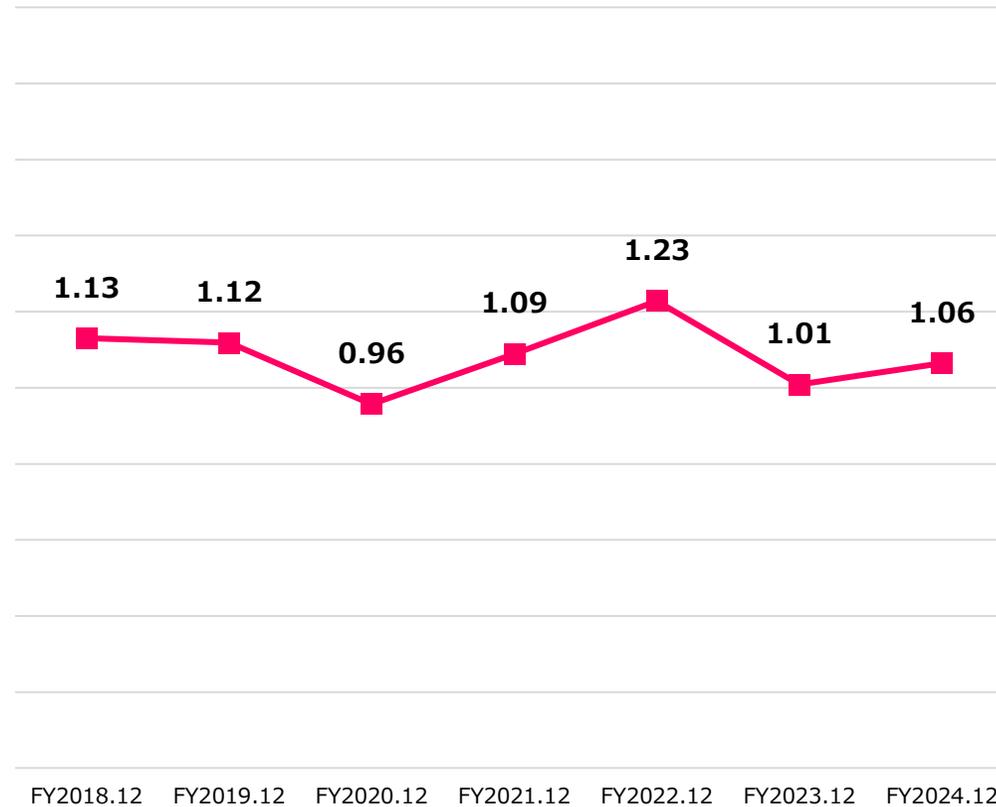
## ■ 株価とBPSの推移

● 期末株価  
 ■ BPS : 1株当たり純資産 (単位：円)

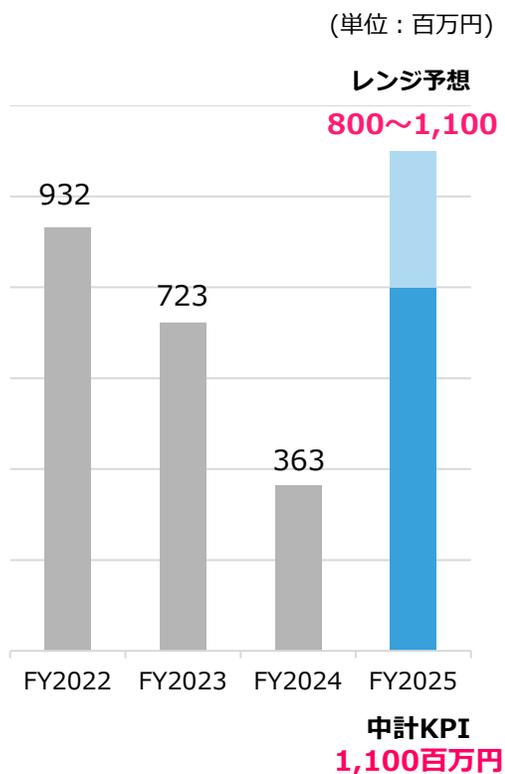


## ■ PBRの推移

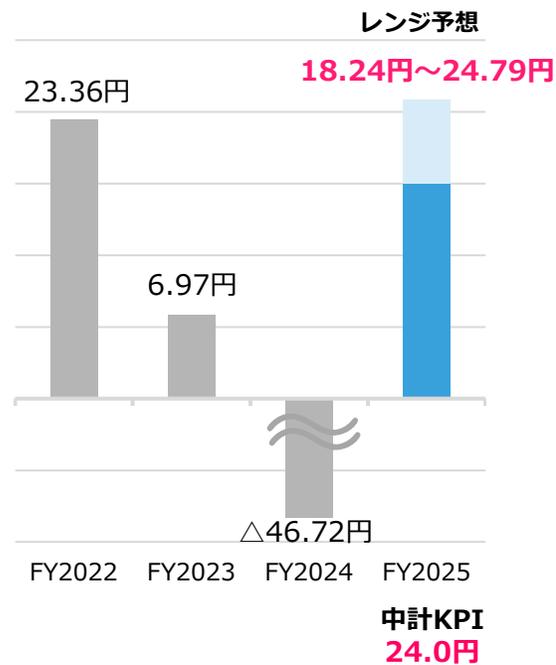
(単位：倍)



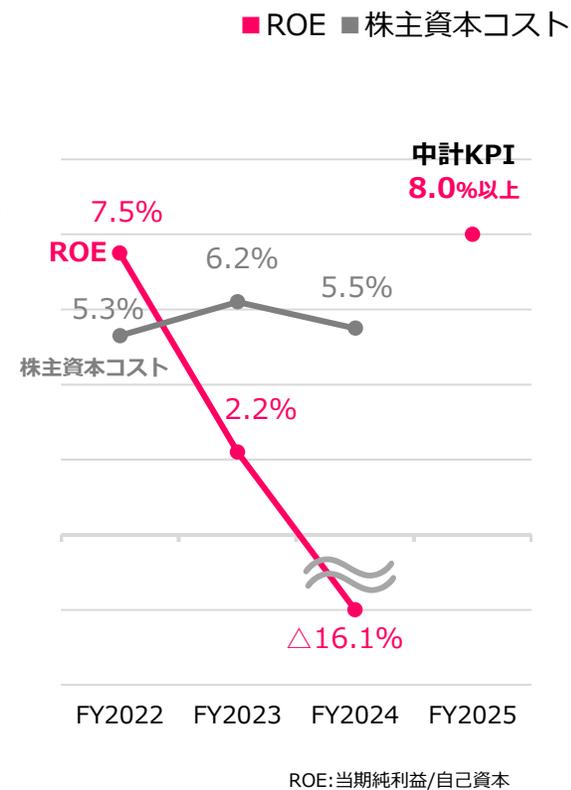
## 営業利益



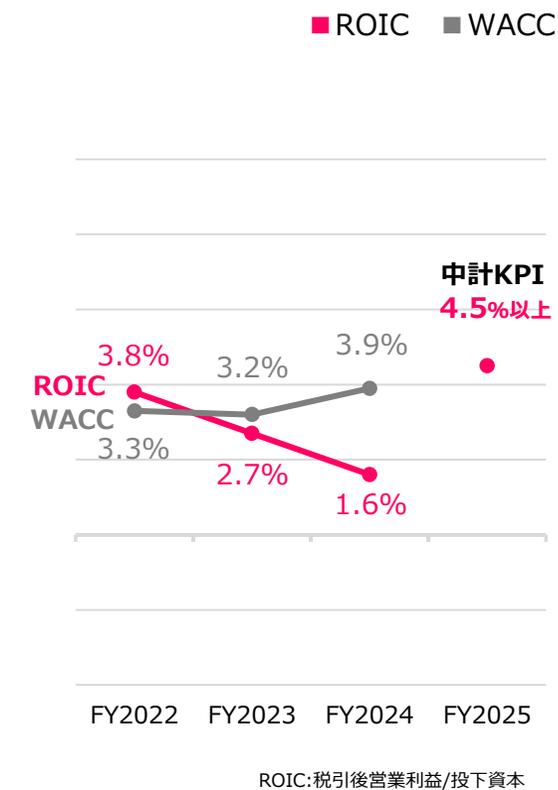
## EPS



## ROE・株主資本コスト



## ROIC・WACC



# 05 | 補足資料

# セグメント別業績（四半期推移）

単位：百万円

売上高	2023年12月期					2024年12月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計
連結	3,471	3,532	3,269	3,260	13,534	3,058	2,803	2,943	3,210	12,016
IoT	2,217	2,120	1,939	2,083	8,361	2,168	1,920	1,984	2,333	8,407
マシーン	1,191	1,350	1,268	1,114	4,925	832	879	959	876	3,546
調整額	62	61	61	62	247	58	4	0	0	62

営業利益	2023年12月期					2024年12月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計
連結	257	212	116	136	723	171	98	47	45	363
IoT	445	217	226	291	1,181	324	216	220	309	1,070
マシーン	60	225	124	123	534	75	119	77	49	322
調整額	△248	△229	△235	△278	△992	△228	△237	△250	△313	△1,029

※スマートシティは譲渡のため調整額に変更しております。

## 経営理念

# 想像と技術と情熱で快適な未来を創造

## Vision

### 笑顔になれる企業グループ

- 優秀な人材が集い、成長と自己実現を両立し、ワクワクとした仕事ができるグループ
- お客様に新しい価値を提供し「ありがとう」と言われる企業グループ
- 健全で適正な利益を生み、社員とその家族を幸せにし、そして株主にも満足してもらえるグループ

## FIGグループのValue

- ベンチャー精神を忘れず、現状維持には満足しない
- リスクのないところにチャンスはない、情熱を持ってチャレンジを続ける
- 慈愛の精神を忘れず、相手の事を考えるのを忘れてはならない
- 行動は正しくなければならない
- 知能だけでなくセンスが大事、行動し経験を積むことで養われる
- 物事を俯瞰して見る、角度を変えれば見え方も変わってくる
- 正しく伝えることは難しく、伝える力が財産になる
- コミュニケーションを大切にし、グループ会社とその組織は横断型でなくてはならない
- スピード自体が大きな価値になる
- どうやれば出来るか、諦めるのは最後の選択



# ESG・SDGsの視点を取り入れた事業戦略でサステナブル経営を目指す



## Environment

### ITで地球環境負荷低減へ貢献

- 自社の製品・サービスによる環境負荷低減
- 事業活動で排出される廃棄物削減、資源化率の向上、自然エネルギーの利用
- 有害物質使用削減への取り組み
- 地域環境の保全



## Social

### グループの技術で快適な未来を創造

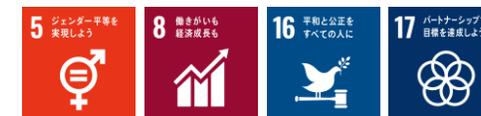
- Society5.0の社会を支える技術・サービスの提供（ドローン・ロボット）
- 持続可能な地域交通に貢献する（バス・タクシー）
- キャッシュレス化社会の実現に貢献する
- MaaSの普及に貢献する
- 防災・減災・安全に貢献する
- スマートホテルを実現する技術の追求
- はたらきやすさ（健康増進・ダイバーシティ推進）を提供する



## Governance

### 経営基盤を強固にするためのガバナンスの強化

- コーポレート・ガバナンスの徹底
- 社外役員の登用
- 役員報酬額の決定方法
- コンプライアンスの順守・研修の実施
- 反社会的勢力排除への対応
- 情報セキュリティの強化

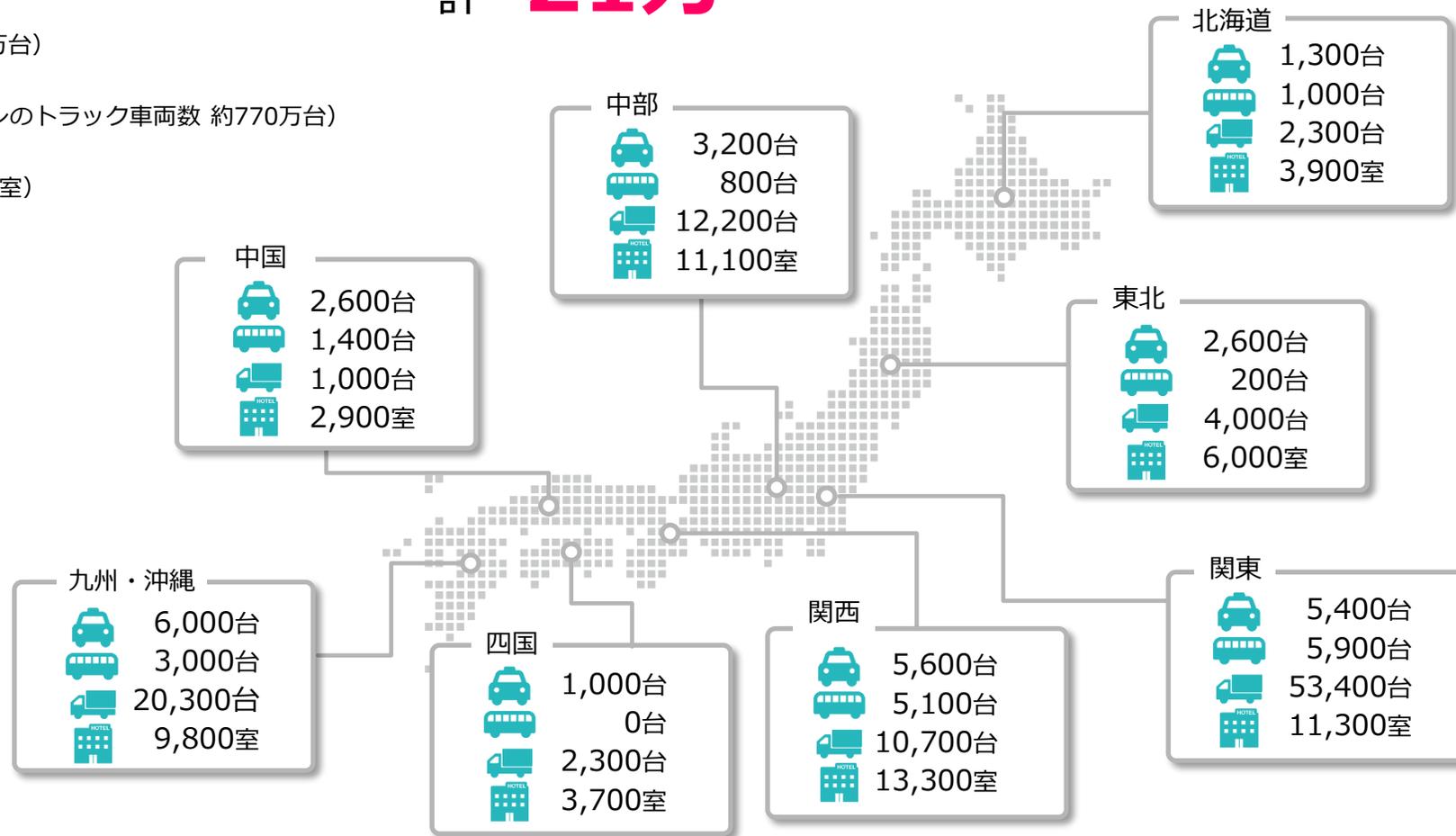


## 顧客基盤（月額サービス契約数）

2024年12月時点

-  タクシー 約27,700台  
(シェア14%、タクシー車両数 約20万台)
-  バス 約17,400台  
(シェア31%、乗合バス車両数 約5.5万台)
-  物流他 約106,200台  
(IP無線車載タイプシェアNo.1、メインのトラック車両数 約770万台)
-  ホテル 約62,000室  
(シェア3.5%、ホテル客室数 約177万室)  
※旅館・ホテル営業の客室数

計 **21万**





- 【 連絡先 】 F I G株式会社 経営企画本部
- 【 住所 】 大分県大分市東大道二丁目5番60号
- 【 T E L 】 097 - 576 - 8730

本発表において提供される資料及び情報は、いわゆる「見通し情報(forward-looking statements)」を含みます。これらは現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。